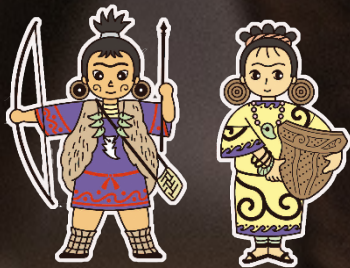


松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画（案）

令和 5 年度～令和 14 年度

（2023 年度～2032 年度）



松戸市立博物館 公式キャラクター
じょうちゃん・もんちゃん

総合展示室展示「深鉢形土器 貝の花貝塚」

目次

第1章 リニューアル基本構想・基本計画の背景

1. 松戸市立博物館設置の目的・基本的性格…………… 2
2. 松戸市の歴史的・文化的特徴…………… 4
3. 松戸市立博物館の現状と課題…………… 5
4. 国・世界の動向…………… 8

第2章 リニューアル基本構想・基本計画の策定方針

1. 策定の経緯…………… 10
2. 策定の方針…………… 11
3. 策定の体制…………… 12
4. 上位計画と計画期間…………… 13
5. 計画内容の確定と公表…………… 14

第3章 リニューアル基本構想(使命と事業目標)

1. 使命／ミッション…………… 16
2. 5つの事業目標…………… 17

第4章 リニューアル基本計画(方針と取組)

- 計画体系図…………… 21
1. 事業目標1 松戸ブランドの価値創出…………… 23
 2. 事業目標2 広域的な文化交流拠点の形成…………… 25
 3. 事業目標3 新しいファン層の獲得…………… 29
 4. 事業目標4 新たな展示空間の創設…………… 32
 5. 事業目標5 施設の長寿命化…………… 43
- 用語解説…………… 46
- スケジュール…………… 47

別冊

松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画

①資料編

②こどもミュージアム基本計画編(案)



第1章 リニューアル基本構想・基本計画の背景

総合展示室「常盤平団地展示内観」

1. 松戸市立博物館設置の目的・基本的性格

● 設置の目的

平成 4 年 9 月 24 日制定の「松戸市立博物館条例」第 2 条に、「本市は、市民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、博物館を次のとおり設置する。」と明記されていますが、その理念の淵源は、昭和 58 年 8 月 31 日付け「松戸市美術館（郷土資料館及び古文書館を含む）構想調査会答申」までさかのぼります。

博物館（当時は郷土資料館と呼称）を設置する目的は、以下のように明確に示されています。

松戸市は、長期構想を策定し、21 世紀を展望した都市像として、『自然との調和』『人間尊重』を基調とし、市民連帯の下に心のふれあう豊かな都市を目指しています。市民が、国際的視野に立ち、将来を展望しつつ、自らのまちに限りない愛着と誇りをもち、自ら郷土の歴史をふまえ、文化的な生活都市への転換を図るためには、市民の活力と行政の条件整備が一体となった創造的活動が必要です。文化活動は市民の一人ひとりが個性を伸ばし、創造性を培い、自己の向上を図る自発的な行為です。本市においても、その活動は年々活発に行われ、市民はより充実した活動の機会を強く求めています。これらの機運に応えるとともに、豊かな情操と郷土愛を培う文化を未来社会へ継承する使命を果たすため造形美術部門、郷土資料部門、文書部門の機能を有する各文化施設が必要です。

● 基本的性格

左記の「設置の目的」から導き出される博物館の「基本的性格」は、以下のよう

ように集約されています。

市民生活に密着した親しみやすい特色ある郷土資料館とする。	郷土の過去の姿を正しく理解し、未来を展望するために、松戸市域を中心とする原始・古代から現代に至るまでの歴史を概観することができる場とする。
人類史的視野にたって、松戸を中心とする地域の風土の中で生きた先人の生活と文化を明らかにしてゆく。	縄文時代を中心とする考古資料をもとに、原始社会の生活文化がどのように展開したかを明らかにする。
教育普及活動を重視し、生涯教育の一環として、市民が気軽に積極的に参加できる自己学習と交流の場とする。	松戸市に関する考古・歴史・民俗資料の保存に努める。
収集・保存・展示・教育普及活動等をよりよいものにするため、調査・研究活動を重視する。	

これらの「設置の目的」と「基本的性格」は今後も松戸市立博物館の上位の目的として堅持し、本計画書も両者を踏まえた計画としています。

2. 松戸市の歴史的・文化的特徴

土器・石器が重要文化財に指定された幸田貝塚をはじめ、貝の花、子和清水など全国的にも著名な140か所を超える縄文時代の遺跡、戦国時代に下総国西部の政治拠点となった巨大な小金城とそれに次ぐ規模の根木内城の2城が公園として保存されていること、江戸時代に将軍臨席で4度行われた大規模な小金原おししがり御鹿狩、現代日本人の住居環境の原型となった常盤平団地、上本郷・大橋・和名ヶ谷で着実に継承されている三匹獅子舞など、市民の誇りと言い得る歴史・文化に恵まれています。



幸田貝塚出土土器・石器
などの重要文化財



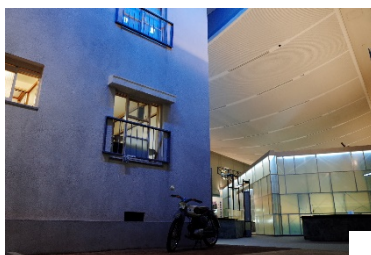
小金城と根木内城(展示)



小金原御鹿狩



上本郷・大橋・和名ヶ谷 三匹獅子舞



常盤平団地



3. 松戸市立博物館の現状と課題

計画策定にあたり、まず6つの視点から現状と課題を分析し、整理しました。

(1) 館蔵資料

現状	課題
<p>松戸市立博物館ならではの、「松戸ブランド」とも呼ぶべき館蔵資料に恵まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 重要文化財の幸田貝塚出土資料を含む膨大な縄文資料 ② 戦国時代の東葛地域の主、小金城主高城氏関連の古文書 ③ 徳川将軍の御鹿狩関係の絵画 ④ 2,000点余を数える日本各地の郷土玩具 ⑤ 希少な虚無僧の寺、一月寺関係資料 ⑥ 住環境改善の国家プロジェクトの端緒、常盤平団地にかかわる生活資料 ⑦ 300点を超えるシルクロード・ガンダール関係資料 	<ul style="list-style-type: none"> ● これら資料に新たな歴史的・文化的価値を見出し、公開および情報発信してゆく手立てが求められます。 ● 貴重で膨大な資料群を効果的に展示し続けるために、現状とは異なる可変的な展示空間などの工夫を施した展示室のリニューアルが求められます。

(2) 施設

現状	課題
<ul style="list-style-type: none"> ● 展示室の面積やスタジオ・燻蒸庫の完備、分野別の収蔵庫、多目的トイレや車椅子に対応したスロープなど、市立施設として国内有数の規模と内容を持ちます。 ● 永年の資料収集の結果、収蔵庫は飽和状態です。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 開館29年を経過し、昨今のインクルーシブデザインの見地からの改善すべき箇所の確認を含め、施設全体に計画的な修繕が求められます。 ● 公開承認施設を目指します。 ● 新たな資料収蔵空間を模索する必要があります。

(3)運営

現状	課題
<ul style="list-style-type: none">● 直営施設として、市民をはじめ、各地の資料所蔵者や関係者と恒久的な関係を維持し得ており、資料調査や展示時の借用なども円滑に進めることができます。● 歴史・考古・民俗 3 分野の学芸員が、専門的な研究を深め、展示会、講演会・講座、『紀要』等での論文執筆などを通じて成果を公表しています。また開館以来、実績豊富な研究者が順次館長職に就くことで、学芸員を直接指揮し、専門性を担保しています。	<ul style="list-style-type: none">● 豊富な館蔵資料群のみならず、市内外の諸資料にも及ぶ学術的な情報蓄積を経営資源と見なして種々の加工を施し、市民の多様なニーズに応えることです。● 松戸市の文化事業や文化政策など館外での活動で、学芸員の専門性をより効果的に活用することです。

(4)利用者

現状	課題
<ul style="list-style-type: none">● 市内外の小学校と高齢者デイサービスの利用が定着をみており、近年は子育て世代が増加傾向にあります。● 利用者比率のおおよそは市内：市外で6：4です。	<ul style="list-style-type: none">● 子育て世代を一層確実に呼び込むために、ターゲットを絞った展示リニューアルと多彩なプログラム設計や、他方中高生・大学生の単独利用の促進など、多面的な対応が必要だと考えられます。● ICTの活用を初め、市内外問わず幅広い利用者を意識した情報発信など、細やかな対応が必要だと考えられます。

(5)立地

現状	課題
<ul style="list-style-type: none">● 市内最大の谷津と周辺台地の自然を取り込んだ広大な都市公園、21世紀の森と広場の一角に立地し、博物館はその入口の一つでもあります。公園利用者が博物館利用者に転じる事例も見受けられます。● 地理的な意味で市の中心域に位置するため、市内のどこからでもアクセスは容易な方です。また東京に隣接する上、近年は大型商業施設の設置に伴ってバス路線が敷設されたことで、市外からの訪問ルートも拡充してきました。	<ul style="list-style-type: none">● 21世紀の森と広場や森のホール 21利用者でも、博物館での良質な学習機会に触れられる仕掛けを施すなど、三施設の連携を真に価値あるものにしていくことです。● 博物館へのアクセスに利便性を感じづらい利用者層が、納得できるような手段を講じることです。

(6)外部との連携

現状	課題
<ul style="list-style-type: none">● 21世紀の森と広場・森のホール 21に県立西部図書館と周囲の文化的環境に恵まれており、前二者との連携事業も立ち上げました。● 博物館友の会と複数事業で協働しています。また市内の学校とは博物館アワード・出前講座・小学生向けの博学連携展示などに加え、新たな連携を模索しています。	<ul style="list-style-type: none">● 周辺施設だけではなく戸定歴史館はもちろん、庁内の文化・観光にかかわる部署との連携を深め、市内の文化資源全般へのアクセシビリティを強化することです。● 現時点での実績を、施設の知名度の向上や集客へと結実させていくこと、また児童生徒から市内の諸団体に至るまで、育成や支援を進めていくことです。

4. 国・世界の動向

- 日本における博物館の動向

「地方自治法」改正に伴う一部公立博物館への指定管理者制度の導入（平成 15 年度）、「教育基本法」改正（同 18 年度）、「社会教育法」・「博物館法」の改正（同 20 年度）、そして「博物館の設置及び運営上の望ましい基準」の告示（同 23 年度）と、21 世紀に入ってわが国の博物館関連法規は急速に変化しました。趨勢としては、博物館の諸事業の評価と運営の在り方が問われるとともに、職員の専門性の向上が求められています。

また、「地域の文化を発信する核」「新たな文化創出につながる拠点」「社会教育の振興」「文化振興」「文化クラスター」としての役割を担うこと、さらに「文化観光拠点施設」として文化芸術基本法が制定（同 13 年度）されるなど、博物館の新たな可能性について期待が持たれているところです。

- 世界における博物館の動向

令和元年（2019 年）に開催された ICOM（国際博物館会議）京都大会では、「Museums as Cultural Hubs（文化をつなぐミュージアム）」のテーマのもと、様々な文化の繋ぎ役として「博物館」の可能性が提示され、世界規模で博物館の役割や存在意義が問い直されています。



第2章 リニューアル基本構想・基本計画の策定方針

主題展示室「虚無僧寺一月寺」

1. 策定の経緯

年月日	内容
平成 5 年 4 月 29 日	開館
平成 24 年 6 月	博物館内リニューアル研究会発足
平成 27 年 7 月	今後の主要なターゲットを子育て世代・家族連れに設定し研究を継続
平成 28 年 2 月	展示計画(案)について、博物館内部でワークショップを行い、展示計画素案を作成(※資料編参照)
平成 29 年 3 月	研究会にて「(仮称)こども歴史博物館」として展示計画について議論開始
平成 29 年 6 月	松戸市立博物館協議会にて、こども向け展示構想について議論
平成 29 年 10 月	松戸市立博物館協議会に博物館リニューアル展示構想について諮問(※資料編参照)
平成 31 年 3 月	松戸市立博物館協議会から「(仮称)こども歴史博物館」について答申を受ける(※資料編参照)
令和元年 7 月	企画展「こどもミュージアム」の開催と成果の検証
令和元年 8 月	松戸市立博物館協議会にて、博物館リニューアル基本構想・基本計画について協議を開始

開館 19 年目に当たる平成 24 年度、正式に動き出した展示リニューアルの検討作業は、ほどなく子育て世代向けサービスに先鞭をつけることに決して、調査・研究が続けられた結果、平成 30 年度には博物館協議会から「(仮称)こども歴史博物館(本計画における『こどもミュージアム』)」の答申を得ました。

その成果を享け、翌令和元年度には、展示に止まらない博物館全体のリニューアル基本構想・基本計画の協議が開始されるに至りました。

2. 策定の方針

第1章から前頁までの多面的な考察と状況分析を踏まえて、「松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画策定方針」を次のように定めます。

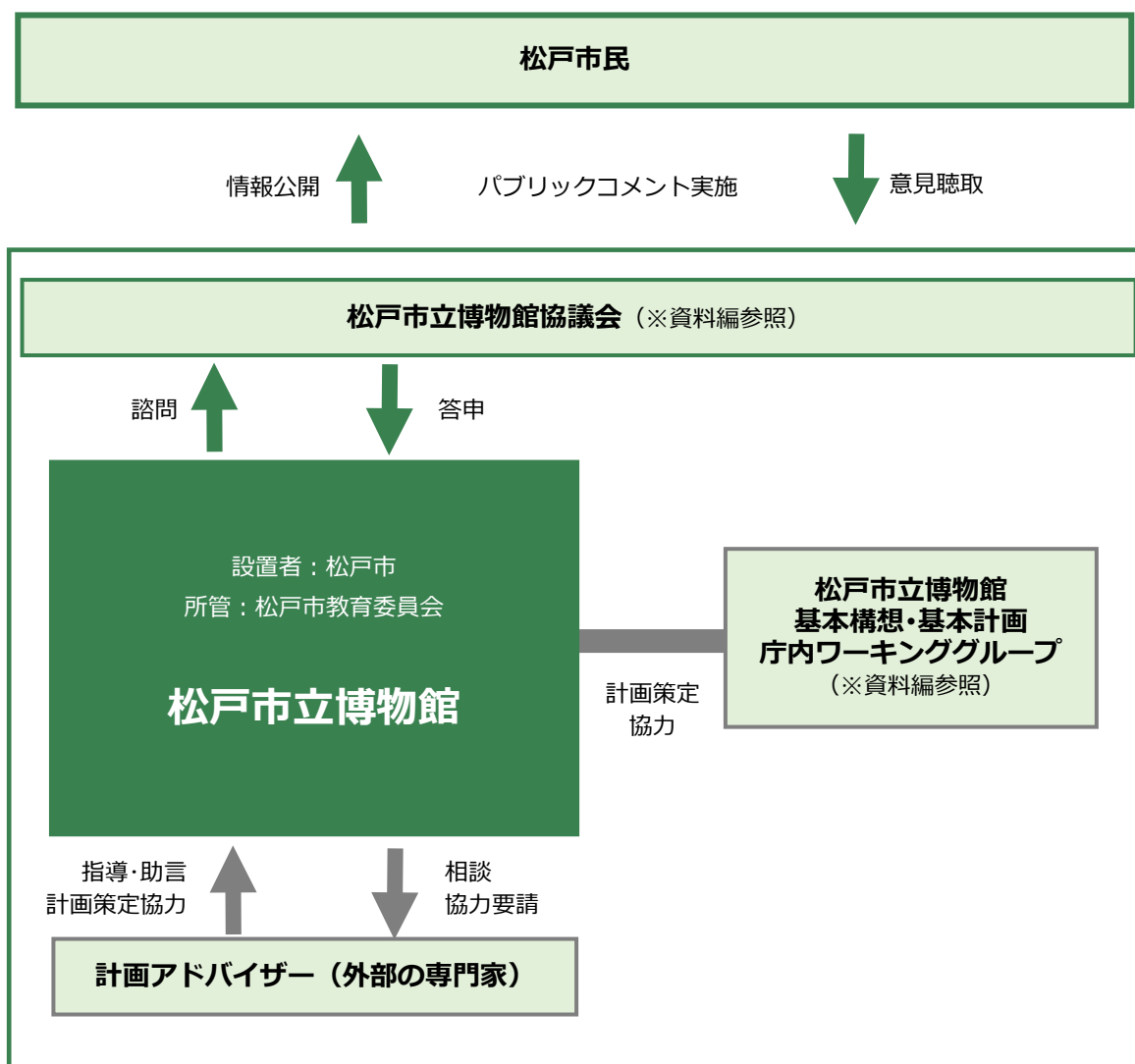
策定方針

松戸市立博物館は、これまでの機能・役割を見直し、より高度な資料の保存と活用を通して、多くの分野、地域、人と人、過去から未来への繋ぎ役として新たな文化施設へと進化することを目的に、「松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画」を策定します。

3. 策定の体制

本計画を策定するにあたり、文化観光国際課、子どもわかもの課、21世紀の森と広場、生涯学習推進課、社会教育課、指導課の6課で構成した庁内ワーキンググループを設置し、さらに外部の専門家を計画アドバイザーとして招聘しました。

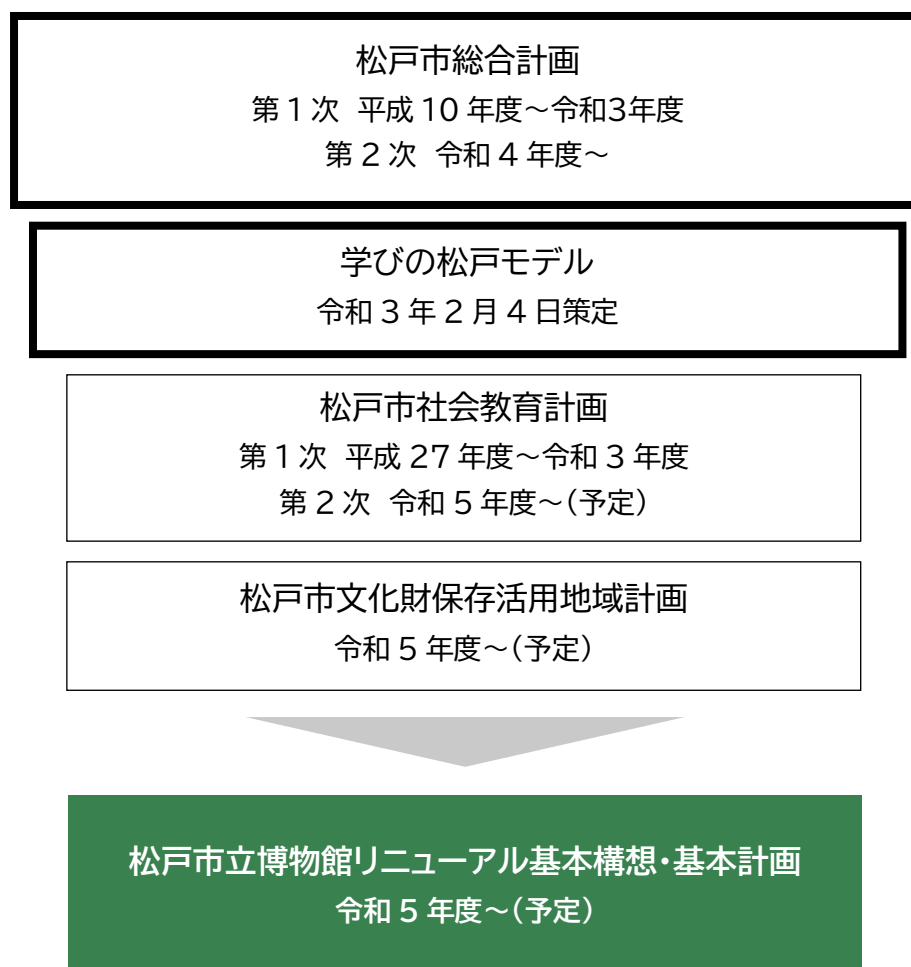
そして、幅広く市民からも意見などをいただき、まとまった計画案を市民・学識経験者・関係団体からの推薦者からなる松戸市立博物館協議会へ諮問し、答申による助言を受けるとともに計画策定を進めました。



4. 上位計画と計画期間

本計画は「松戸市総合計画」をはじめ、本市教育行政の指針となる「学びの松戸モデル」を上位計画とした個別計画であり、市民に地域の歴史・文化を通じて生涯学習を推進していきます。さらに、教育関連の個別計画である「松戸市社会教育計画」及び「松戸市文化財保存活用地域計画」とも連携を図りつつ、本計画で目指す博物館像の実現のために、取り組んでいきます。

以上の関係性に基づき、本計画期間を令和5年4月1日から令和15年3月31日の10年間の中長期計画として実施していきます。



5. 計画内容の確定と公表

本計画は、市立博物館の諮問機関である「松戸市立博物館協議会」からの助言、指導をいただき、パブリックコメントでの市民の意見を反映させた上で確定し、公表します。



第3章

リニューアル基本構想（使命と事業目標）

総合展示室「松戸の河岸復原模型」

1. 使命／ミッション

第1章・第2章を経て到達した認識を、松戸市立博物館の使命とそれを実現するための目標として整理し直します。松戸市立博物館は、3つの社会的な役割を果たすために活動します。

使命／ミッション

- ◎ 松戸市立博物館は、松戸の3万年の歴史と文化を研究し、その「知」の集積をもとに未来を展望するために誰もが活用できる歴史博物館をめざします。
- ◎ 多くの市民が松戸の歴史と文化を楽しみながら価値を発見し、「ふるさと松戸」に対する愛着と誇りを育むことができる地域博物館をめざします。
- ◎ 未来を担う子どもたちを育み、多くの人々をつなぎ、協力を推進し、「ひとづくり」に貢献できる文化交流の場をめざします。

2. 5つの事業目標

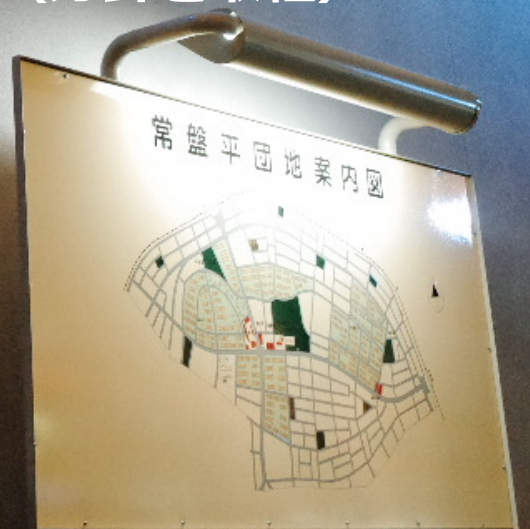
3つの使命／ミッションを達成するために5つの事業目標を掲げ、取り組みます。

事業目標-1 広報戦略	松戸ブランドの価値創出
これまで蓄積してきた研究成果や貴重な文化財など 松戸市立博物館の価値を強力にアピールし、 博物館の認知度アップをめざします。	
事業目標-2 エリア戦略	広域的な文化交流拠点の形成
松戸市立博物館は、千駄堀エリアの文化環境や自然環境を生かし、 周辺施設との連携を強化し、 市民のための文化交流拠点をつくりあげます。	
事業目標-3 ターゲット戦略	新しいファン層の獲得
松戸市立博物館は、家族で楽しめて集える博物館をめざし、 新規利用者の開拓に努め、共に博物館を盛り上げていく 仲間づくりを推し進めます。	
事業目標-4 展示戦略	新たな展示空間の創設
こどもも大人も松戸の歴史と文化を楽しく学ぶことができる 「こどもミュージアム」を整備します。 また、常設展示※全体の充実も図ります。 ※総合展示室、主題展示室、野外展示全体を指します。	
事業目標-5 施設戦略	施設の長寿命化
多様な利用者に対応できるよう施設の充実を図るとともに、 今後も持続可能な博物館活動を展開できるよう 施設・設備の長寿命化を図ります。	

これら 3 つの使命と 5 つの事業目標を以て、松戸市立博物館をリニューアルするに当たっての基本構想とします。

次章では、使命ならびに事業目標を達成するため、方針と取組を講じ、「松戸市立博物館リニューアル基本計画」とします。

第4章 リニューアル基本計画（方針と取組）



総合展示室「常盤平団地展示外観」

計画体系図

3つの使命	5つの事業目標	方針	具体的な取組
<p>◎松戸市立博物館は、松戸の3万年の歴史と文化を研究し、その「知」の集積をもとに未来を展望するために誰もが活用できる歴史博物館をめざします。</p> <p>◎多くの市民が松戸の歴史と文化を楽しみながら価値を発見し、「ふるさと松戸」に対する愛着と誇りを育むことができる地域博物館をめざします。</p> <p>◎未来を担う子どもたちを育み、多くの人々をつなぎ、協力を推進し、「ひとづくり」に貢献できる文化交流の場をめざします。</p>	<p>事業目標1 松戸ブランド の価値創出</p>	(1)所蔵文化財の価値の発信	<ul style="list-style-type: none"> ① 進化していく展示 ② 調査・研究対象の整理と作業の効率化 ③ 館蔵資料の履歴作成と合理的な活用
		(2)ICTによる文化財情報の整理・発信	<ul style="list-style-type: none"> ① ICTを活用した迅速・広範な情報発信 ② 工夫を凝らしたアイテムの充実
	<p>事業目標2 広域的な文化交流 拠点の形成</p>	(1)千駄堀地区文化交流拠点としての位置付け	<ul style="list-style-type: none"> ① 1日中楽しめる空間創出 ② 市内外からの集客
		(2)観光拠点としての位置付け	<ul style="list-style-type: none"> ① 文化財へのアクセシビリティ強化 ② まつどの歴史・文化の観光ルート ③ 松戸市戸定歴史館との連携
		(3)県西部の中核館としての位置付け	<ul style="list-style-type: none"> ① 歴史・文化の拠点 ② つなぐ博物館
	<p>事業目標3 新しいファン層 の獲得</p>	(1)子育て世代の博物館の利用支援	<ul style="list-style-type: none"> ① 家族で楽しめるプログラム ② 楽しみながら学ぶ松戸の歴史
		(2)地域とつながる、市内地域の歴史的文化的発信	<ul style="list-style-type: none"> ① 様々な団体への支援・協力 ② 地域活動団体などとの連携
		(3)学校教育施設などとの連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ① 各地域の歴史や文化を活かした小中学校との連携 ② 児童学部との連携 ③ 市内高校・大学との連携
	<p>事業目標4 新たな展示空間 の創設</p>	(1)こどもミュージアムの整備	<ul style="list-style-type: none"> ① 5つの柱に基づいたこどもミュージアムの整備 ② 4つの展示部門での構成
		(2)新しい発見や学びのための可変的な展示	<ul style="list-style-type: none"> ① 可変性のある展示空間 ② 調査・研究成果をスピーディに公開する展示空間
		(3)ニーズに対応した展示空間	<ul style="list-style-type: none"> ① 松戸市立博物館でしか味わえない展示空間
	<p>事業目標5 施設の長寿命化</p>	(1)インクルーシブデザインの導入	<ul style="list-style-type: none"> ① 快適に過ごせる施設の整備
		(2)施設の老朽化対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> ① 老朽化施設の改修 ② 館蔵資料の適切な管理
		(3)アクセスの改善	<ul style="list-style-type: none"> ① 駐車場の効率的な活用 ② スムーズなアクセス

事業目標 1 松戸ブランドの価値創出

これまで蓄積してきた研究成果や貴重な文化財など松戸市立博物館の価値を強かにアピールし、博物館の認知度アップをめざします。

方針(1) 所蔵文化財の価値の発信

県西部唯一の縄文重要文化財「千葉県幸田貝塚出土品」をはじめ、数十万点にも及ぶ市の貴重な所蔵文化財の調査研究を深め、魅力を発信することで、「松戸ブランド」として誇りと親しみがもてる多角的な活動を展開します。

また前提として必要な資料の調査・研究を拡充します。

具体的な取組

① 進化していく展示

展示やイベントにより興味を持って観覧・参加できるよう、広報から展示・解説手法に至るまで、全般を逐次総括・反省しながら拡充・改変することで発信力を強化します。

② 調査・研究対象の整理と作業の効率化

博物館活動の根幹である資料の調査・研究の在り方について、短期的業務と中長期的業務を弁別・整理して館内で情報共有する等の見直しを行い、効率化と集中化を図ります。

③ 館蔵資料の履歴作成と合理的な活用

資料の保存と活用のバランスを正確に認識しながら、調査・展示・燻蒸・貸し出し等、一連の事業を実施します。



方針(2) ICTによる文化財情報の整理・発信

「松戸3万年の歴史」の見どころや最新の研究成果を、ICTを活用し、様々な方法で発信し、市民と交流していきます。

具体的な取組

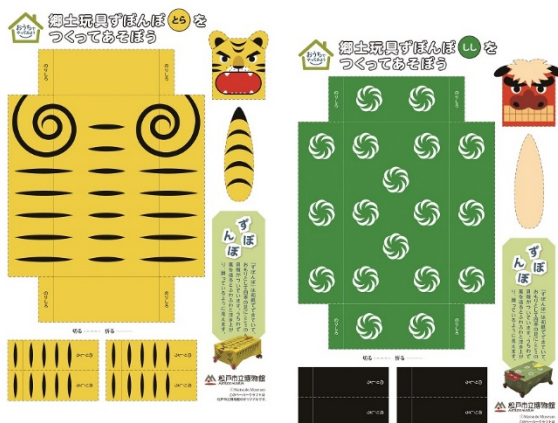
① ICTを活用した迅速・広範な情報発信

紙媒体だけでなくホームページやSNSなどを活用し、市内、市外、さらに世界に向けて松戸市立博物館の情報発信を行います。

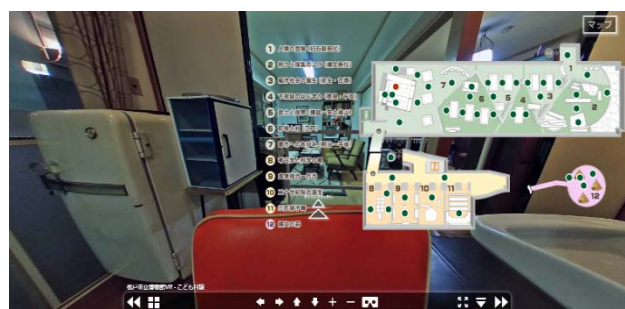
また、デジタルアーカイブの機能を兼ね備え、収蔵する貴重な資料をウェブ上でも検索・閲覧できるデジタルミュージアムの整備を推進します。さらに、文化財の3Dデータ化も進め、公開・活用を図っていきます。

② 工夫を凝らしたアイテムの充実

アイテムや表現方法に工夫を加えながら、さらなる利便性とわかりやすさ、楽しさの充実を図り、ネットワーク環境を活用した取り組みを行います。



おうちミュージアム「ずぼんぼをつくって遊ぼう」



常設展示 VR

事業目標 2 広域的な文化交流拠点の形成

松戸市立博物館は、千駄堀エリアの文化環境や自然環境を生かし、周辺施設との連携を強化し、市民のための文化交流拠点をつくりあげます。

方針(1) 千駄堀地区文化交流拠点としての位置付け

21世紀の森と広場、森のホール 21 と連携し、文化交流拠点の一角として恵まれた自然環境の中で「音楽・芸術」「自然」「歴史・文化」を味わえるコンテンツやイベントを企画、良質な情報を提供し、集客力アップを目指します。

具体的な取組

① 1日中楽しめる空間創出

誰もがみんな一日中楽しみながら、音楽・芸術、自然、歴史・文化を満喫できるような、各施設を連関させる体制の整備を強化し、恒常的な施設の相互利用の活性化と認知度を向上させます。

21世紀の森と広場 M 森の中で自然と

森のホール21 O 音楽、演劇と

松戸市立博物館 R 歴史と文化を

一日中楽しめる I

10:00 スタート！
21世紀の森と広場
中央口から入場！秀と風の広場を散策開始！とても広くて気持ちの良い空間です！自由に好きなように過ごせる広場。

11:00 千駄堀池の周りで
お散歩！自然観察
まで！ボードウォーク（池をほんやり渡る）のんびり。

12:00 21世紀の森と広場
内のカフェテラス
の夏の涼風が気持ちいいお弁当
でピクニックランチ！

13:00 おどりの里、つど
いの広場を散策！
のどかな田園風景を眺めながら、お散歩。季節ごとの花が咲き、秋にはイロハモミジが真っ赤に染まっています。

15:00 博物館を結ぶ、松戸
3万の歴史を
体験！内部から外観まで忠実に再現した常設展示館の展示は必見です！企画展・資料展も魅力満載！

17:00 森のホール21
からのライブを
予約、ゆったりとした気持で良質な
シートで鑑賞。泊りある音楽
で感動すること間違いなし！

まつど文化のMORIパンフレット（令和2年度）

② 市内外からの集客

多岐にわたる連携イベントを企画し、市内外からの集客と新規利用者を獲得します。



3館連携謎解きラリーシート(令和2年度)



3館連携謎解きラリーシート(令和3年度)

方針(2) 観光拠点としての位置付け

市内文化施設などと連携を深め、文化財を通じて松戸の歴史を知る・探る「観光ルート」や「歴史の道」などの情報を発信します。

具体的な取組

① 文化財へのアクセシビリティ強化

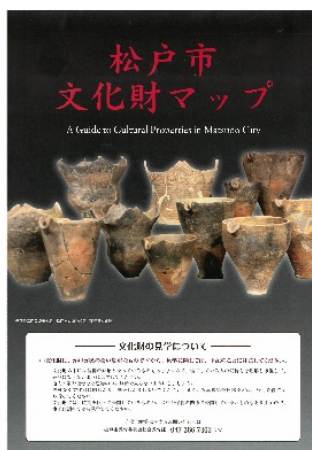
博物館の展示のみで完結するのではなく、常設展示や各種展覧会の見学をきっかけとし、利用者がさらに歴史・文化への興味・関心を高め、たとえば市内の史跡へ実際に赴くといった、文化財へのアクセシビリティを強化します。

② まつどの歴史・文化の観光ルート

観光スポットとして「観光ルート」「歴史の道」の散策を推奨し、歴史・文化を体感する楽しさを多角的な視点から市内外に発信します。同時に、郷土の歴史・文化に魅力を感じ、誇りが持てるように市全体のなかで連携を強化します。

③ 松戸市戸定歴史館との連携

連携展示や市内文化施設各種イベント等を多く企画し、歴史・文化を通してつながる街の魅力を発信します。



松戸市文化財マップ

方針(3) 県西部の中核館としての位置付け

市外の博物館などとも連携し、県西部の中核館として歴史・文化のさらなる普及・発展を目指します。

具体的な取組

① 歴史・文化の拠点

東京に隣接する好立地に加え、周辺博物館と比較しても充実した規模・内容を誇る当館の長所を活かし、歴史・文化に関する情報発信の拠点としての事業を展開します。

また、市民と重要文化財とのよりよい出会いの場をつくるために「公開承認施設」の認定を取得し、企画展などで貴重な文化財を適切な環境で公開・活用できる施設をめざします。

② つなぐ博物館

人類史的な視野による調査研究を行い、その成果を基礎とした企画展等の展覧会、普及活動を展開することにより、松戸を広い視野からとらえなおし、各地域をつなぐとともに、さらには人類の過去・現在・未来をも結びつける視点とその意義を発信します。



事業目標 3 新しいファン層の獲得

松戸市立博物館は、家族で楽しめて集える博物館をめざし、新規利用者の開拓に努め、共に博物館を盛り上げていく仲間づくりを推し進めます。

方針(1) 子育て世代の博物館の利用支援

子育て世代の博物館デビューや家族による利用を積極的に支援し、憩いの場として楽しく利用できる環境を提供します。

具体的な取組

① 家族で楽しめるプログラム

家族で気軽に利用できるプログラムやイベントを常時開催します。

② 楽しみながら学ぶ松戸の歴史

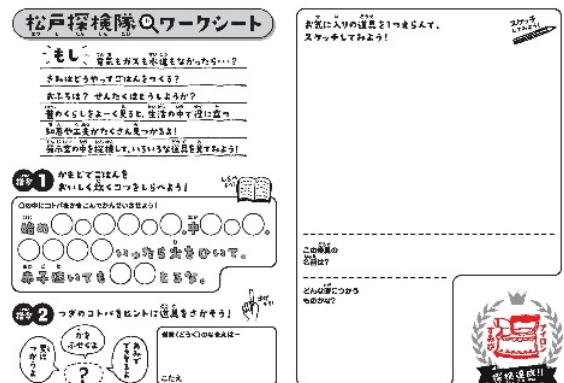
こども向けワークシートで、歴史を学習していないこどもにも、松戸の歴史を楽しみながら学べる機会を提供します。



プレイルーム



令和3年度企画展
「古墳時代のマジカルワールド-ワークシート-」



令和3年度博学連携展示「ワークシート-」

方針(2) 地域とつながる、市内地域の歴史的文化の発信

縄文遺跡、御鹿^{おししがり}狩、常盤平団地、小金城・根木内城、獅子舞をはじめ、市内各地域の歴史文化を通じて松戸市立博物館友の会などの諸団体と繋がることで「交流」を形成し、さらに郷土への理解と愛着が深まる仕組みを作ります。

具体的な取組

① 様々な団体への支援・協力

市内のさまざまな団体と連携して共催事業等を実施するだけでなく、活動を支援できるよう助言・協力します。

② 地域活動団体などとの連携

地域活動団体や町会・自治会の学習活動の取り組みをつなぎ、博物館を核とした連携が深まる仕組みを作ります。



方針(3) 学校教育施設などとの連携強化

学校（小・中・高校・大学・専門学校等）との連携を強化し、教員・生徒へのアウトリーチ活動を展開します。また、NPO や企業などと連携し、家族で楽しいワークショップ、グッズなどを企画開発し、歴史・文化の魅力を発信します。

具体的な取組

① 各地域の歴史や文化を活かした小中学校との連携

松戸市内各地域の特徴ある歴史や文化を児童が学習できるよう、小中学校と連携し学習指導要領にも対応したカリキュラム作りを進めます。また、出前授業などのアウトリーチ活動へ活かします。

② 教育学部との連携

聖徳大学教育学部との連携を進めることで、双方に意義ある活動を模索し、館内外の事業に反映させます。

③ 市内高校・大学との連携

小中学校だけでなく、高校・大学との連携によりこれまで進めてきた博学連携プログラムを強化します。



事業目標 4 新たな展示空間の創設

こどもも大人も楽しく、松戸の歴史と文化を学ぶことができる「こどもミュージアム（旧こども歴史博物館）」を整備します。また、常設展示全体の充実も図ります。

方針(1) こどもミュージアムの整備

見て触って楽しみながら松戸の歴史・文化の深さを知ることができる「こどもミュージアム」を整備し、こども、家族で日常的に利用できる学習の場を提供します。

具体的な取組

① 5つの柱に基づいたこどもミュージアムの整備

(1) 博物館と最初に出会う場所

(2) 家族で一緒に楽しめる体験プログラムの提案

(3) こどもたちの自主性を重視する歴史体験

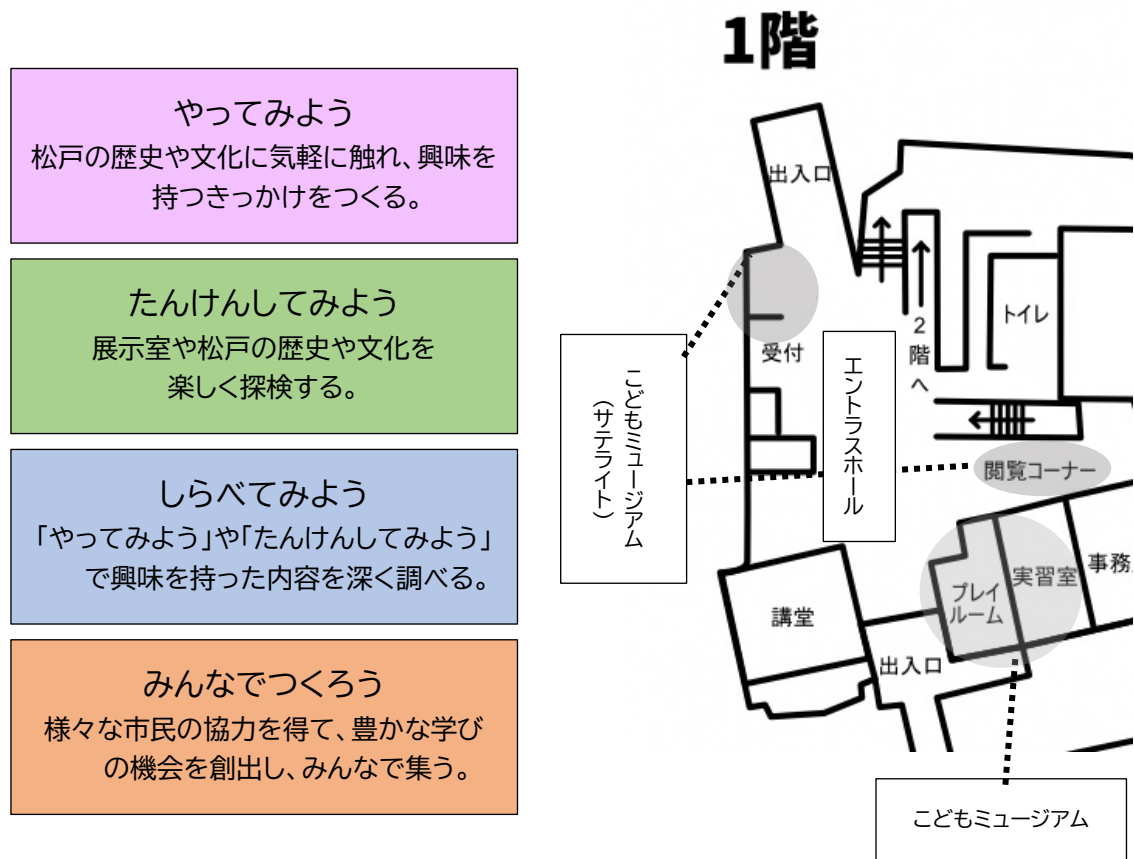
(4) 公園にある博物館の特性を活かした活動

(5) 人々の交流が生まれる広場

② 4つの展示部門での構成

「こどもミュージアム」は、「やってみよう」「たんけんしてみよう」「しらべてみよう」「みんなでつくろう」の4つで構成され、各展示部門には松戸の歴史や文化にアプローチする多彩なプログラムを用意して、常に新たな歴史体験ができます。

この4つの展示部門は関連性を持ち、こどもたちが自らの興味に応じて自発的で主体的な学びを深められるプログラムの開発を目指します。



詳細は、こどもミュージアム基本計画編を参照ください。

方針(2) 新しい発見や学びのための可変的な展示

可変的展示空間を創設し、来るたびに新しい発見や学びを深めることができる展示を提供します。

具体的な取組

① 可変性のある展示空間

現在の主題展示室を改変し、新たに可変性をもつ展示空間を創設します。新収蔵資料の公開、企画展示を先取りした宣伝も兼ねた展示会などを、設備や什器の見直しや ICT の活用も視野に入れながら展開します。

② 調査・研究成果をスピーディに公開する展示空間

総合展示室内にも可変性をもつ展示ケース等を増設し、通史展示における各時代の新たな研究成果の発信や、関連する収蔵資料を公開し、また、定期的な入れ替えなどを行ないます。



方針(3) ニーズに対応した展示空間

わかりやすい解説から深い学びまで一人ひとりの利用者に対応でき、誰もが快適に過ごせる総合展示室を整備します。

具体的な取組

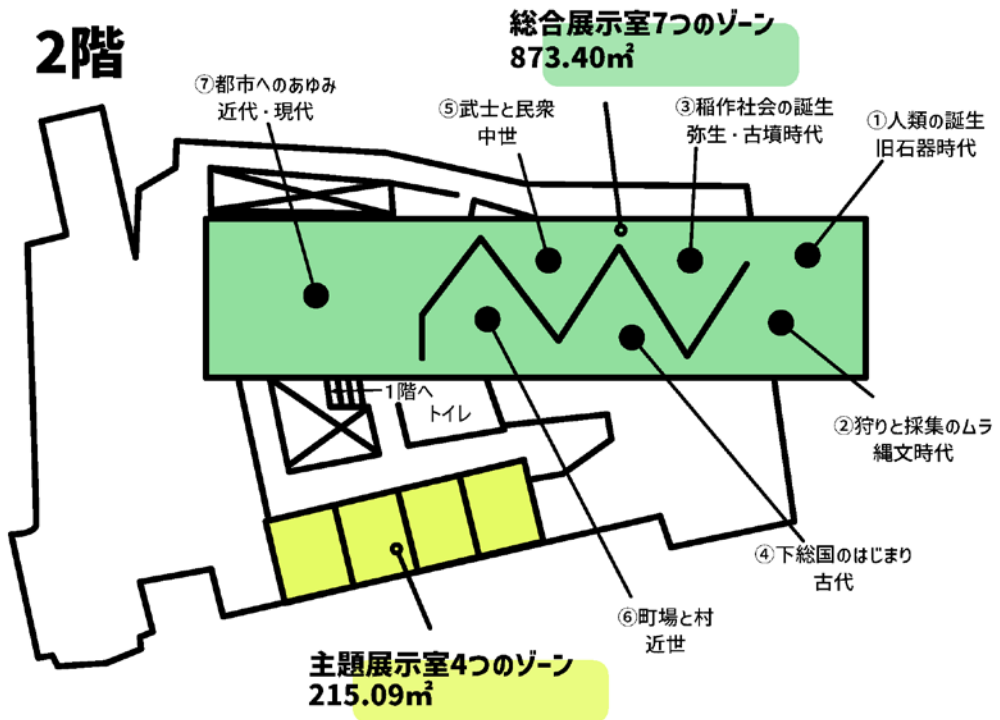
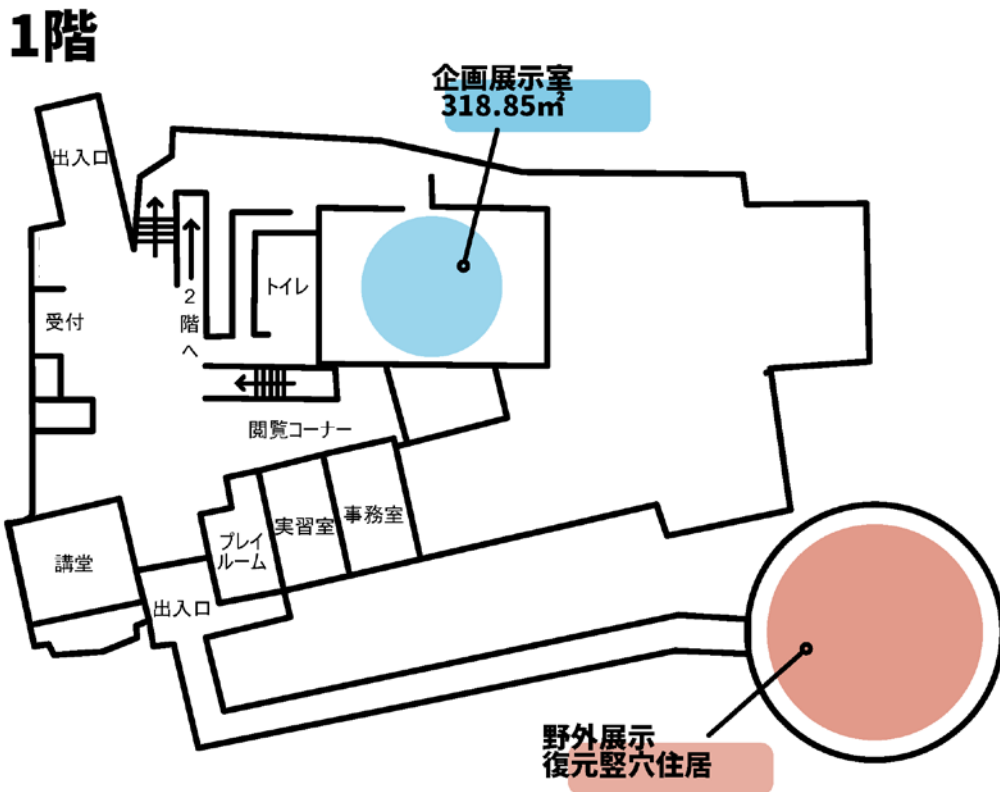
① 松戸市立博物館でしか味わえない展示空間

総合展示全体

- ・ 展示室の明るさを総合的に見直し、展示資料や模型をよく観察できるようにします。
- ・ 車いす利用者が見やすいように、展示台ケースの形状を工夫します。
- ・ 展示資料や模型について、詳しい情報・解説やイラスト・写真等を用いたわかりやすい説明を付け加えます。展示室内で QR コード等を用いた情報提供サービスを行ない、見学者の興味・関心に応じて学びを深められる工夫を凝らします。



展示室の現状



総合展示・各ゾーンに関すること

I. 【人類の誕生／狩りと採集のムラ】〔旧石器・縄文時代〕

- ・ SDGs を意識し、従来にも増して自然と人間との関わりを重視し、環境変動に適応するなかで、人々の生活がどのように変化してきたか、出土資料とともにわかりやすく展示します。
- ・ 縄文海進期の生活実態が分かる好例として、幸田貝塚出土品を展示します。
- ・ 現在のジオラマ「縄文の森」は年代観、内容を見直した上で存続させ、出土資料と有機的に関連付けた説明の装置として活用します。
- ・ なぜ当時の環境や生活がわかるのか、その根拠となる分析結果や研究成果をわかりやすく明示し、見学者の理解を深めます。



幸田貝塚出土土器(重要文化財)



総合展示室「縄文の森」ジオラマ

II. 【稲作社会の誕生／下総国のはじまり】〔弥生時代・古墳時代・古代〕

- ・ 新たな調査資料の増加、研究成果の蓄積を受け、展示内容や解説の不足箇所について、可変性をもつケースを設置・利用し、収蔵資料及び調査研究の成果を反映させた展示を展開します。日本列島で古墳が築かれ始めた頃、松戸ではどのような墓が築かれていたのか、市内検出の方形周溝墓関連資料や、行人台遺跡から出土した渡来人との関わりがうかがえる資料、古墳から出土した埴輪などを随時、入れ替えながら展示します。
- ・ 「河原塚 1 号墳の埋葬施設復元模型」に対応させて、新たに人骨検出状況の写真を展示し、実際に検出された被葬者と副葬品の状況と比較しながら模型が見学でき、見学者の興味・関心を惹くよう改善します。
- ・ 展示中の小野遺跡から出土した銚帯金具（役人が身につけたとされるベルトの飾り）は飾り金具のみの展示であるため、新たにベルト全体が分かる復元模型を製作・展示し、見学者が理解しやすいようにします。
- ・ 各展示資料が実際に、どのように使われたかがわかるようなイラスト、発見された遺跡の位置や遺跡の発掘調査写真などの追加情報をオンデマンド（QR コードなど）で閲覧できるようにします。



行人台遺跡出土の渡来系遺物



栗山古墳群出土の形象埴輪

III. 【武士と民衆】 【中世】

(ア) 根木内城跡の展示を新設

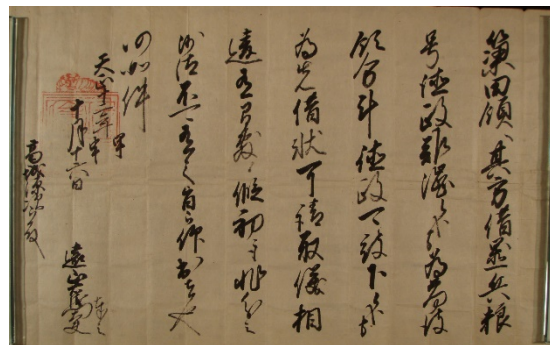
開館後に発掘調査が行われ、出土資料に加えて城の規模や役割についての新知見が加わりました。また歴史公園としては県内屈指の良好な保存状態にある根木内城の展示を追加することで、市域の戦国時代理解の増進を図り、同時に身近な文化財への意識を高めます。

(イ) 高城氏関連古文書コーナーの増設

近年購入し、市指定文化財にも指定された西原文書、さらに高城氏直系御子孫からの古文書も寄贈されたことで、博物館の中世資料は俄かに増大しました。これらの積極的な活用と保存の両立を図るため、良質なレプリカを作成して常時展示できるようにします。



(ア)根木内城の嚴重な障子堀(しょうじぼり)



(イ)北条家朱印状(高城忠雄家文書)

IV. 【町場と村】（近世）

（ア）近世の村

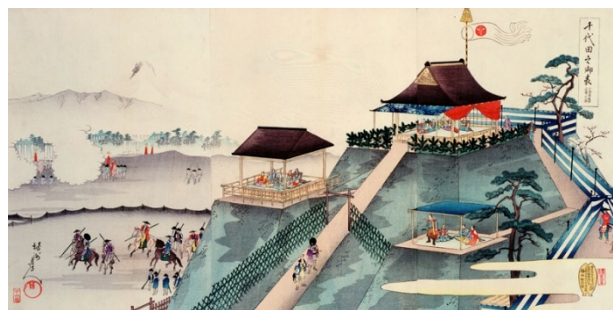
いまの松戸市域にあった、50 をこえる江戸時代の村々の名前が、現在の町名のもとになったこと、陸上・河川交通を通じて、松戸が 100 万人都市の江戸と密接にむすびついていたことなど、現代と江戸時代の連続性を重視した展示内容とすることで歴史を身近に感じてもらえるようにします。

（イ）小金牧と御^{おししがり}鹿狩に関する展示

小金原御鹿狩は、いまの松戸市域にあった小金牧（中野牧）周辺の野原で行われました。今では完全に失われた牧の景観や、そこで育成されていた日本在来馬の展示を盛り込み、4 回行われた徳川将軍の御鹿狩の概要を振り返り、様々な御鹿狩関連資料を展示します。



（ア）まつどの江戸時代の村



（イ）「千代田之御表 小金原牧将立場之図」（楊州周延画）

V. 【都市へのあゆみ】〔近代・現代〕

(ア) 下谷・谷津・台

- ・ 照明を明るくし、模型をよく観察できるようにします。
- ・ 現状の「下谷・谷津・台」の配置について、「常盤平団地の誕生」の動線と整合性を持たせるとともに、3つの模型が比較できるように変更します。
- ・ 「下谷・谷津・台」の各集落の生活を表す写真、イラストなどの情報も発信します。
- ・ 可変性を持つ展示室で、各集落の生活資料を実物展示できるようにします。

(イ) 常盤平団地

- ・ 新たに 60 年に及ぶ生活の営み全体を反映した展示とします。
- ・ 電動車椅子にも対応できるリフター（昇降機）に改良します。



(ア)農村の景観



常盤平駅方面よりポイントハウスを見る



常盤平駅からの中央の通りのけやき並木は成長した

VI. 【当館所蔵シルクロード関係コレクションの展示】

- ・ 松戸市では 1980 年頃、シルクロード美術を展示する美術館が計画された際に収集されたコレクションの他、2020 年には新たに寄贈された奥井俊美氏のコレクションが加わりました。
- ・ ガンダーラ仏やイスラーム陶器をはじめとする 400 点近いシルクロード関係コレクションを所蔵する公立の博物館・美術館は全国でもわずかです。これらの貴重な美術的・学術的価値が高い資料を、新たに創設する可変的な展示室を利用し、計画的に公開します。
- ・ 同時に、調査研究を進め、これらのコレクションの価値や意義を追究し、広く人類史的な視野から発信に努めます。



菩薩半跏像(写真:小川忠博)



浮彫「四天王捧鉢」(写真:小川忠博)



仏頭(写真:小川忠博)



把手付壺



青緑釉下型押把手付水差



白釉上エナメル彩植物・抽象文鉢

事業目標 5 施設の長寿命化

多様な利用者に対応できるよう施設の充実を図るとともに、今後も持続可能な博物館活動を展開できるよう施設・設備の長寿命化を図ります。

方針(1) インクルーシブデザインの導入

外国人、障害者、高齢者など、誰もが安心・安全で、平等に利用できるインクルーシブデザインの施設を目指します。

具体的な取組

① 快適に過ごせる施設の整備

性・国籍・年齢・障害の有無などに係わらず、誰もがストレスなく立ち寄り、展示を観覧し、事業に参加できる空間を構成します。



方針(2) 施設の老朽化対策の推進

震災・火災・水害等の脅威にも耐えられるよう、文化財の展示・所蔵環境を見直します。さらに文化財を未来に受け継ぐための施設整備・改修を計画的に進め、長寿命化に対応します。

具体的な取組

① 老朽化施設の改修

博物館は開館後 29 年以上経過し、年数とともに建物の老朽化が進行しており、安全面、機能面で様々な不具合が発生しています。今後、計画的な点検を行い、施設老朽化の進行状況に応じて、建築、電気、給排水、空調設備などの修繕工事を行います。また、地震、水害などの災害時に備えた建物の機能強化を図ります。

② 館蔵資料の適切な管理

国の重要文化財など貴重な歴史資料を保管している重要な機能を担う収蔵庫の適正な保管環境の整備を図ります。



復元竪穴住居修繕



収蔵庫



方針(3) アクセスの改善

利用者のアクセス改善として、公園駐車場や最寄り駅からのアクセスなどの環境整備を目指します。

具体的な取組

① 駐車場の効率的な活用

利用者の利便性向上のため、21世紀の森と広場駐車場の有効活用として誘導サインなどの環境整備を図っていきます。

② スムーズなアクセス

主要駅（八柱駅、新八柱駅、新松戸駅）から博物館までの適切な誘導の看板や案内板の充実を図ります。



用語解説 (50 音順)

用語	該当ページ	解説
アウトリーチ (Outreach)	P31	博物館内だけでなく、需要に応じた対外的な活動のこと
アクセシビリティ (Accessibility)	P7、P21、P27	目的や情報などに対する近づきやすさ、利用しやすさのこと
ICT(アイシーティー) (Information and Communication Technology)	P6、P21、 P24、P34	通信技術を活用したコミュニケーションのこと
インクルーシブデザイン (Inclusive Design)	P5、P21、P43	できるだけ多くの人々の要素(年齢・性別・人種・障害)を理解して考え、取り入れるデザイン
SDGs(エス・ディー・ジーズ) (Sustainable Development Goals)	P37	2015 年から 2030 年までに、「持続可能でよりよい世界を目指す」ために設定された 17 個の国際目標
オンデマンド (On-Demand)	P38	利用者の直接的な要求に応じ、必要な情報やものを個別に提供すること
カリキュラム (Curriculum)	P31	教育目標を達成するための系統立った計画のこと
QR コード (QR Code)	P35、P38	スマートホンなどのカメラで情報を読みとり、ホームページなどの情報に素早くアクセスすることができるもの
燻蒸	P5、P23	害虫やカビなどを殺す目的で、資料を薬剤で燻すること
重要文化財	P4、P5、P23、 P37、P44	日本にある建築物・美術工芸品・考古学資料・歴史資料などの有形文化財のうち、歴史上・芸術上・学術的に価値が高いもので、文部科学大臣が指定したもの
通史展示	P34	松戸市域を中心に、すべての時代にわたる総合的な歴史展示。総合展示室がそれに当たる
デジタルミュージアム (Digital Museum)	P43	絵画や彫刻などの芸術作品や、歴史や民俗などさまざまな資料をデジタルデータに変換して保管し、インターネット上で様々な方に公開するコンテンツ
博学連携プログラム	P31	こどもたちの博物館利用方法・観覧方法などを、博物館学芸員と学校教員が互いの教育機能を活かして連携した教育活動
文化財	P17、P21、 P23、P27、 P39、P44	文化活動により生み出され、長い間守られてきた有形・無形のもののうち、文化的価値の高いもの

スケジュール (主な事業内容)

事業目標	事業内容	R3(2021年)	R4(2022年)	計 画 策 定	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
		先行事業			2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年
事業目標1 松戸ブランドの 価値創出	展示・調査・研究 資料収集・保存活用 ICTの活用	デジタル ミュージアム 開発・製作	デジタル ミュージアム オープン		デジタル ミュージアムの活用	①新たなPR方法について検討、導入 ②アプリの活用・導入 ③リニューアルに関するプレス発表		①デジタルミュージアムの拡張 ②文化財を活用したコンテンツ作製 ③リニューアル展示の活用					①デジタルミュージアムの拡張 ②文化財を活用したコンテンツ作製	
事業目標2 広域的な文化交流拠点 の形成	事業 活動	①3館パンフレット 作成 ②3館がスター作成 ③3館QRコード ④3館QRコード	①3館パンフレット 更新 ②3館がスター更新 ③3館QRコード更新 ④3館QRコード更新		①3館グッズの共同開発検討 ②3館のPV検討 ③3館パンフレット更新		①3館グッズの共同 開発 ②3館のPV作製 ③戸定歴史館との 連携展示	①3館パンフレット更新 ②近隣博物館との 連携展示		近隣博物館との 共同展示		①3館パンフレット更新 ②3館での位置アプリの導入		
事業目標3 新しいファン層の獲得	子どもをターゲットに 新たなファン獲得を目指した事 業	デジタル子ども ミュージアム 開発・製作	①デジタルこども ミュージアム オープン ②縄文体験		①展示室での こどもクイズ検討 ②学校と連携・博物 館活用カリキュラム 作成・活用(地域 別)	①展示室でのこどもクイズ導入 ②出前授業	①学校と連携・博物館 活用カリキュラム 作成・活用(地域別) ②出前授業	こどもクイズ 更新 こどもミュージ アムの活用						
事業目標4 新たな展示空間の創設	展示 整備	博学連携 展示	こども ミュージアム 試行展示		設計			工事 (企画展示室のみ 営業予定)	開設 供用開始					
	常設展示の リニューアル	渋沢栄一 関連資料 特別公開			詳細検討	詳細検討 内容決定	基本設計 実施設計	工事 (休館)	開設 供用開始					
事業目標5 施設の長寿命化	施設 整備				課題抽出	計画考案 内容決定	設計	工事 (休館)						
	老朽化対策		①天井等改修 工事設計 ②企画展示室 改修工事設計		チラー修繕 設計委託	①天井等改修 工事設計 ②企画展示室 改修工事 (休館)								
										修繕計画に基づき、優先順位をつけながら、順次対応				